

一般社団法人 日本創傷外科学会

専門医試験

～筆記試験過去問題集～

第 10 回専門医試験

問題 1) 外頸動脈から最初に分岐するのはどれか。

1. 舌動脈
2. 後耳介動脈
3. 頸横動脈
4. 顔面動脈
5. 上甲状腺動脈

問題 2) 眼窩先端部症候群でみられない症状はどれか。

1. 眼球陥没 (凹)
2. 眼瞼下垂
3. 散瞳
4. 視力低下
5. 眼球運動障害

問題 3) 下記の組み合わせで不適切なのはどれか。

1. 鼻篩骨骨折 - 流涙
2. 上顎骨折 - 咬合異常
3. 前頭骨後壁骨折 - 髄液鼻漏
4. 下顎骨関節突起骨折 - 開口障害
5. 鼻骨骨折 - dish face 変形

問題 4) 皮弁と栄養動脈の組み合わせで誤りはどれか。

1. 大胸筋皮弁 - 胸肩峰動脈
2. 鼠径皮弁 - 浅下腹壁動脈
3. 肩甲皮弁 - 肩甲回旋動脈
4. 大殿筋皮弁 - 上殿動脈
5. 広背筋皮弁 - 胸背動脈

問題 5) 手の外傷について、正しいのはどれか。

1. Heat-press injury は、手の皮膚レベルの損傷である
2. Run-over injury は、成人の手が最も多い
3. 切断された手は再接着手術まで、約 4℃の環境下に保存しておく
4. 小児の屈筋腱損傷では、肘関節までのギブス固定は避けるべきである
5. 手掌は皮膚が厚いため、Ⅲ度熱傷になり難い

問題 6) 体幹に関する次の選択肢の中で誤りはどれか。

1. 陥没乳頭は、乳腺炎の原因になりうる
2. 両下肢リンパ浮腫患者では、陰部リンパ浮腫を伴うことが多い
3. 臍部の感染では、異所性子宮内膜症の鑑別診断が重要である
4. 臍の位置は、剣状突起と恥骨とのほぼ中点にある
5. 殿部毛巣洞は、男性に特異的な疾患である

問題 7) 化学損傷について誤りはどれか。

1. 治療の第一は早期の大量の水による洗浄である
2. アルカリによる損傷は深達性であることが多い
3. フッ化水素酸はポリエチレングリコールで拭きとる
4. 苛性ソーダによる創面では石鹼様のなめらかな壊死がみられる
5. クロム酸による損傷では、障害された全ての組織を早期に切除する

問題 8) 小児の熱傷について正しいのはどれか。

1. 初期治療では時間尿量は 0.3~0.5ml/Kg(体重)を維持する
2. 全身の保温を行う
3. 経口摂取は利尿期以降とする
4. 感染の併発による深度の進行は成人に比べまれである
5. 気道熱傷では経口挿管より気管切開を優先する

問題 9) 広範囲熱傷について正しいのはどれか。

1. 代謝亢進は受傷直後が著しい
2. Curling ulcer の恐れがあるので中心静脈栄養が望ましい
3. 環境温度が 20℃の時に代謝が最も抑制される
4. 代謝亢進の著しい時には血中カテコールアミンも増加する
5. 低体温にして代謝亢進を抑制する

問題 10) Z 形成術について正しいのはどれか。

1. 線状拘縮には効果がない
2. W 形成術に比べ延長効果が小さい
3. 瘢痕内では延長効果が得られやすい
4. 皮弁の角度により延長率が異なる
5. 皮弁先端の血行障害を起こすことはない

問題 11) ケロイド、肥厚性癬痕の圧迫療法について誤りはどれか。

1. 患部の緊張低下
2. 虚血による局所の細胞活性の低下
3. 局所の安静保持の強化
4. 隆起、肥厚の抑制
5. 線維芽細胞の誘導

問題 12) 癬痕について正しいのはどれか。

1. 頸部の縦の癬痕は拘縮しにくい
2. 顔面では癬痕はきれいになるので、創の方向は気にしなくてよい
3. 顔面の RSTL に直交する傷跡修正に W 形成は有効である
4. 胸骨部の創はケロイドになりにくい
5. 関節部は癬痕を残しにくい

問題 13) 創傷被覆材の使用に関して正しいのはどれか。

1. 感染創や感染リスクの高い創傷が創傷被覆材の使用に適した創傷である
2. 抗菌作用を有する創傷被覆材では、抗菌剤としてポビドンヨードが含有されている
3. アルギン酸 Ca 含有被覆材は、止血効果を有する
4. 創傷との接触面に多用されているソフトシリコンは接着力が強く剥離時の刺激が強い
5. 外用薬との併用は禁忌である

問題 14) 糖尿病性足病変が進行する病態として誤りはどれか。

1. HbA1c 高値
2. 末梢神経障害
3. 末梢循環障害
4. 高尿酸血症
5. 易感染性

問題 15) 静脈鬱滞性潰瘍の診断と治療について正しいのはどれか。

1. 診断のため末梢静脈エコーによる逆流・血栓の確認は有用性が低い
2. 典型的には下腿内側に色素沈着を伴う有痛性の潰瘍が発生する
3. 腫瘍が原因で発生することはない
4. 治療において、潰瘍周囲の変色した皮膚は完全に切除しなければならない
5. 弾性包帯や弾性ストッキングの使用は原因を根治できないため有用性は低い